

グローバル人材育成

アンリツグループは、計測事業をはじめとして海外への事業展開を進めています。その海外事業を推進する人材の育成が、これからのアンリツグループの成長にとって最も重要な課題の一つです。グローバル人材育成では、語学力の底上げにとどまらず、グローバルに働くマインドの醸成も重要であると考えています。

新入社員教育では、海外ビジネス経験が豊富な社員から代表的なプロジェクトの体験談を聴く場を設けており、新入社員は、国内外関係者との連携の重要性や海外ビジネスのポイント、面白さなどを学び、多くの刺激を受けています。

計測事業のグローバルトレーニング

海外拠点から80名程度の参加者を招き、計測事業のグローバルトレーニングを実施しています。このトレーニングは、アンリツグループの海外拠点で計測ビジネスを担うセールスエンジニアが一堂に会し、新製品や現行製品の新機能、市場分析、アンリツのソリューション、サクセスストーリー、デモのノウハウ、販売戦略、製品ロードマップなど、多岐にわたる研修を受けることができる内容となっています。参加者は、座学による新たな知識習得に加えて、実機を操作することによってセールスポイントを把握し、デモの進め方を学ぶなど、実践に役立つスキルを習得しています。



グローバルトレーニングの様子

労働安全衛生

社会的課題の背景

労働災害防止とともに、過労死やメンタルヘルス不調が社会問題としてクローズアップされる中で、社員が安心して健康に働くことができる職場環境の実現に向けて、一層の取り組みの推進が求められています。

方針

アンリツグループは、社員一人ひとりが、その資質を最大限に発揮できるよう、社員の安全と健康を第一に、快適で生き生きと働くことができる職場環境づくりを進めていくことが重要であると考えています。それを実現していくために、グループ企業行動憲章では「従業員の尊重」を、グループ行動規範では「職場環境の整備」を掲げることで、関係法令を遵守し健康と安全に配慮した、生き生きと働くことができる職場環境を整備することを定めています。

また、社員一人ひとりの健康保持・増進に、会社・健康保険組合それぞれの立場でより積極的に関与していくために、国内アンリツグループを対象とした「アンリツグループ健康経営方針」を別に定めています。

[アンリツグループ健康経営方針]

アンリツグループは、社員一人ひとりが健康で生き生きと働いていることが、企業価値の源泉であると考えています。全ての社員が健康について関心を持ち、自身の健康上の課題を認識し、健康保持・増進に向けて自律的な取り組みを進めている状態を目指し、アンリツグループ各社とアンリツ健康保険組合が一体となり、健康経営の実現に向けた活動を進めます。

体制

国内アンリツグループでは、アンリツ(株)の安全衛生担当執行役員を安全衛生の最高責任者とし、グループ共通の安全衛生に関する事項の決定、実施の指示を行っています。また、関係法令に準拠した安全衛生管理体制を確立しています。アンリツ(株)健康管理室に所属する産業医、産業カウンセラーを中心とする産業保健スタッフは、定期的な職場巡視や各種健康診断・ストレスチェック後の事後措置、心身の健康に関する個別相談への対応など、グループ社員の健康保持・増進に向けたさまざまな取り組みや支援活動を行っています。

アンリツ(株)は、労使合同の安全衛生委員会を月次で開催しており、2017年度の委員会の構成は次のとおりとなっています。委員会で審議された内容は、議事録とともにイントラネットを通じ、すべての社員に開催後速やかに開示・周知されています。アンリツ(株)の安全衛生委員会には、国内グループ会社の社員もオブザーバーとして参画しており、国内アンリツグループ全体での情報共有や施策などの水平展開が図られる仕組みとなっています。

【アンリツ(株)安全衛生委員会構成(2017年度)】

委員長：総括安全衛生管理者(安全衛生担当執行役員)

副委員長：2名(うち1名はアンリツ労働組合が選出)

委員：10名(うち5名はアンリツ労働組合が選出)

上記のほか、産業医、オブザーバー(国内アンリツグループ会社社員)、事務局メンバーが参加しています。

なお、アンリツ労働組合は、アンリツ(株)とユニオンショップ協定を締結している労働組合です。

アンリツ(株)は、アンリツ労働組合と締結している労働協約の中で、安全衛生についても必要な事項を協定しています。具体的には、安全確保や健康保持・増進に向けた事業主としての適切な措置の履行、安全衛生委員会の設置と委員選出基準、教育や健診の実施、危険・有害業務に対する就業制限などを規定しています。なお、国内アンリツグループの社員が従事する業務は、特定の疾病の発症率あるいはリスクが高い業務に該当しません。

中長期目標

国内アンリツグループでは、安全に関しては、災害発生ゼロを目標に活動を行っています。健康保持・増進に関しては、2018年度から2020年度までの3カ年を計画期間とした健康経営中期計画を策定しており、以下の課題に関し、KPI、数値目標を設定し活動を開始しました。

	主要課題	KPI	2020目標(現状値等)
1	当面の安定的・継続的就業や将来の健康維持にリスクのある層の極小化・維持	☆糖代謝有所見者比率(HbA1c 5.6%以上) ☆高血圧判定者比率(血圧 140/90以上) ★メンタル休業率(期末時点休業者比率)	40%以下(42.0%) 現状水準維持(9.9%) 現状水準維持(0.6%)
2	定期健康診断有所見率改善	☆定期健診有所見率	59%以下(2020年推計値60%)
3	健康意識の高揚	☆適正体重維持者率(40歳以上) ☆運動習慣者比率(40歳以上)	69%以上(67.7%) 28%以上(26.5%)
4	健康経営の定着	健康経営優良法人認定	認定の継続(2017、2018認定)

☆：本社地区(神奈川県)の定期健診結果に基づく現状値・目標値 ★：国内アンリツグループ連結での現状値

参照：データ集
(Social)

労働安全衛生関連数値 (P.30)

進捗と課題

国内アンリツグループでは、2017年度、休業災害ゼロを達成しました。一方で、不休災害は7件発生しており、労働災害ゼロの目標は実現できませんでした。2018年度は、改めて国内アンリツグループ全体で労働災害ゼロを目指し活動を進めています。

また、通勤途上災害に関しては、2017年度、国内アンリツグループ全体で15件発生しています。2016年度と比較すると7件の増加となっています。特に、休業が必要な災害が2016年度から3件増加し5件となっています。2017年度の通勤途上災害の主な要因は、その利便性の高さから、通勤においてバイクや自転車等の二輪車を利用する中での事故であり、二輪車利用者のより一層の安全意識(危険予知)の高揚が継続的な課題と認識しています。

取り組み/活動実績

安全衛生・健康管理の主な取り組み

- ・安全衛生委員会を通じた活動状況の確認や災害防止策の立案
- ・機械設備の新規導入・移動・変更時および化学物質購入時の事前審査による災害リスク低減
- ・階層別教育やリスクアセスメントなどの目的別研修を通じた安全衛生意識の高揚
- ・作業環境測定や職場巡視、防災訓練や普通救命講習を通じた安全・安心で快適な職場づくり
- ・各種健康診断(定期、特殊、雇入時、海外赴任者)、ストレスチェック制度の実施とフォローアップ
- ・長時間残業者の問診票によるスクリーニングと産業医面談および健康確保措置の実施
- ・生活習慣病予防や感染症対策を目的とする産業医講演、女性向け健康推進セミナーなどの健康啓発活動
- ・メンタルヘルスケアを目的とする幹部層向け教育、カウンセリング
- ・通勤途上災害防止のための交通安全研修会

(交通安全講話、交通KY(危険予知)研修会、二輪車安全運転講習会、自転車安全運転研修会)



安全衛生委員会



二輪車安全運転講習会



普通救命講習会



女性向け健康推進セミナー

TOPICS

海外トピック (OHSAS 18001の認証取得)

Anritsu EMEA Ltd. (英国)は2012年5月、労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格であるOHSAS 18001:2007の認証を取得し、2018年5月に更新しました。この規格は、以下の事項を支援する枠組みを規定することにより、安全で健康的な職場環境づくりを推進しています。

- 健康と安全に関するリスク識別と管理
- 事故が発生する可能性を低減
- 法令遵守の補助
- 全体のパフォーマンス向上



健康経営優良法人2018認定

アンリツ(株)は、経済産業省の「健康経営優良法人2018」において、定期健康診断・ワークライフバランス・健康増進・生活習慣予防対策・メンタルヘルス制度・施策の実施状況調査により選定基準をクリアしたことから、大規模法人部門(ホワイト500)に2年連続で認定されました。

健康経営優良法人認定制度とは、健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康増進の取り組みのもとに、優良な健康経営を実践している法人を顕彰する制度です。評価項目は、経済産業省と東京証券取引所が共同で選定する「健康経営銘柄」で用いる評価のフレームワークによる、①経営理念、②組織体制、③制度・施策実行、④評価・改善、⑤法令遵守・リスクマネジメントからなる5つの評価項目により認定されます。



働き方改革の取り組み

国内アンリツグループでは、長時間労働による健康障害発生防止の観点から、時間外労働の削減、深夜時間帯勤務の極小化、定時退社日運用の徹底などの全社共通マネジメント方針に基づく労働時間適正化施策を継続的に進めています。

さらに、「長時間労働＝仕事ができる」という認識はもはや過去のものであるという認識に立ち、2016年8月から「朝の活力とともに元気に明るく働く」方針を掲げ、始業時間出社の励行、19:00以降原則退社とし消灯を実施、会議時間の短縮・効率化の推進などの施策を強化し、生産性を向上させてイノベーションを起こし、企業価値向上へつなげることを目的とした働き方改革を推進しています。

サプライチェーンマネジメント

社会的課題の背景

アンリツグループは、日本および海外でグローバルに調達活動を展開しており、この調達活動においては、国内外のすべての企業に機会を提供し公平な評価により調達を実施しています。取引先さまのご協力を得ながらさまざまな活動に参画いただき、より強固なパートナーシップを構築していくことや、関係する法律、商習慣、社会規範を遵守することを基本に、地域環境保護を含めサプライチェーン全体で社会の期待・要請に応えていきます。

方針

調達活動にあたり、取引先さまとサプライチェーン全体で活動し、相互の成長につなげていくことが非常に重要であると考えています。取引先さまとの相互信頼に基づいたパートナーシップを構築するために、2005年に「資材調達基本方針」を制定し、取引先さまにご理解とご協力をお願いしています。

詳細(WEB)
資材調達基本方針

体制

アンリツは、主に米国、中国、日本に調達拠点を構えており、部品の採用における評価基準をグローバルで統一化する活動を進めています。これにより、各拠点が認定したサプライチェーンの相互活用が可能になり、グローバルで連携した部材調達活動を促進しています。